

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 めろん 組	4月～6月	

● 実施計画

活動テーマ		
サイエンス ～自然と天気～ 自然と天気～ 身近な自然の探索・栽培から気象現象への探究		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
子どもたちは日頃から戸外活動が盛んで、散歩中や公園などで自分の興味のある草花や木の実、虫などの自然物を自ら見つけ、集めて遊ぶ姿が多く見られます。室内活動においても、見つけたものを図鑑で熱心に調べたり、自分なりに名前をつけたりして、友達や保育者と見せ合いながら探し合ったり会話を広げたりする様子がありました。また、朝の会での天気の確認やプール活動時の気温測定を通じ、日頃から天気についての興味関心が高く、保育者に自ら進んで質問する姿も日常的に見られていました。		
		環境設定 ・ 準備物
	内容	
	自然の探索と栽培： 朝の会で「公園にはどのような春があるか」や行く先の公園を話し合い、希望丘記念公園、中公園、塚戸公園などの様々な公園へ出向きました。公園では、春の生き物や植物をのびのびと探索・収集し、25種類の内容で作成した「春ビンゴ」というゲーム要素を取り入れながら、見つけたものを互いに共有し合いました。 気象・天気の探究活動： 4月の天気の振り返りを行いながら「晴れ」「雨」だけでなく「曇りのち晴れ」のような変化する天気や「台風」「竜巻」といった気象現象について話し合い、自由画帳に絵を描いて発表し合いました。	【環境設定】 安全な探索ルートを選定。屋上での土づくり用ブルーシートの配置。室内で写真や図をじっくり見ながら、正解を求めず安心して自由に発言・表現できる開放的な空間の確保 【準備物】 植物図鑑、手作り春ビンゴ、栽培セット（プランター・種・土・シャベル・じょうろ）、自由画帳、クレヨン、雲の写真集・発生原理図、黒画用紙、カラーセロファン、はさみ、スマートフォン（記録用）

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
「春ですよ」の手遊びから導入し、ゲーム性のあるビンゴを繰り返し用いることで探索目的を明確に持たせました。土の再利用による土づくりから始めることで構造への興味を促し、指を使って「1cmのくぼみ」を意識した種まきを誘導しました。「なぜ雨が降るのか」など自然のメカニズムへ問いかけ、虹の色順の驚きや、「太陽光でどう楽しく遊ぶか」を子どもに考えてもらう製作活動へと展開しました。	【子どもの姿・声】 採集した花を「〇〇ちゃん好きそう」と譲り合い、葉をキャベツに見立てて遊んでいました。土づくりでは「根っこがあった！」と夢中で異物を取り除き、年下児に使い方を教え、種まきでは「1cmってこれくらい？」と自分の指で測っていました。「曇りのち晴れも天気だよ」「大雨で下水が溢れる」と知識を詳細な絵で表現し、虹に悩み、太陽光の観察では「ベンチに映った！こっちがよく映るよ」と場所を工夫し合っていました 【保育者との関わり】 ・「好きな色の花あるかな」と興味を促し、花を親に見せたいという声に「どうしたら枯れずに見せられるか」を一緒に模索しました。 開かれた質問(オープンクエスチョン)を工夫して記憶からの発言を引き出し、子どもが「どうすれば光を目で見られるか」を自ら考えて能動的に実践できるよう見守り、支えました。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・身近な公園でも「春を見つける」目的の共有やビンゴの導入により、飽きずに探究心や協同性が持続することが分かりました。 事前に調べることで本物の種への実感が深まり、再利用の土づくり体験も地球の環境要素への興味を引く上で有効でした。 天気的事象を絵で表現することで経験がより鮮明に記憶に残り、写真で多様な雲を見たことでその後の戸外活動でも空を見上げる子が増えました。 自ら考え作ったものを外で活用するプロセスは意欲を高め、虹への興味は次月のプール活動へ地続きに繋がれると確信しました。	日頃の朝の会や戸外活動での自然・天気の対話の積み重ねが、深い探究心を引き出す土台になっています。子どもの「またやりたい」を取り入れることで多角的な発見に繋がり、ビンゴは活動が充実する非常に良いアイデアです。発見を「絵に描く」表現プロセスは、個々のエピソードやイメージの多様性を共有させ、より記憶に残す効果的なアプローチです。 自ら考え作ったものを実際の戸外活動で活用する展開は、科学する心と豊かな想像力が美しく融合した素晴らしい探究活動であり、今後もこの不思議を共に楽しんでいきましょう。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 めろん 組	7月～9月	

● 実施計画

活動テーマ		
たべもの ～食への知的好奇心と身体つながり ～ 野菜の性質から体内での働きへの探究		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
子どもたちは給食中に「この野菜美味しい」「この野菜なんか苦いね」など同士で会話を交わす姿が多く、日頃から夏の野菜や食材について高い興味関心を持っていました。さらに、前月のテーマである「野菜」の活動を経てからは、「なぜ野菜を食べたほうがいいのか」という新たな疑問を感じ、室内でも自ら進んで図鑑を開き、野菜や果物について熱心に調べる姿が日常的に見られていました。		
		環境設定 ・ 準備物
	内容	
	野菜の性質の探究： 野菜の種類がどれくらいあるかをみんな考えたのち、イラストを参考にしながら、それぞれの野菜が「どんな味か」「どんな食感か」をグループごとに発表・共有し、気づいた情報を紙にまとめて掲示しました。 身体の観察と体内の探究： 育てている夏野菜の振り返りや水やりを行うとともに、自分たちの体を実際に観察しました。鏡を使って目や口の中を見たり、動かせる部位を探したりしたほか、呼吸時の変化や「体の中で動き続けている場所」など、目に見えない体内（臓器・血液・骨）へと興味を広げました。消化の仕組みと食育：朝食や前日のご飯が体のどこにあるかを問いかけ、絵本やイラスト、看護師への質問を通じて、食べた物が体の中をどのように消化・吸収されていくのか、また給食中に今食べたものがどこの臓器にあるのかを多角的に学びました。	【環境設定】 子どもたちが自ら調べ、興味関心を自由に深められるよう、図鑑やポケット図鑑を日常的に活用できる環境を室内に用意しました。体の観察を行う際は、実際に体をのびのびと動かせるよう、保育室内のスペースを事前に広く確保しました。 【準備物】 野菜のイラスト、のり、両面テープ、掲示用の養生テープ、ポケット図鑑・図鑑、iPad・タブレット・PC（保育者の調査用）、食べる事に関する絵本、鏡、ホワイトボード、ホワイトボードマーカー、臓器の名称を描いたイラスト、血液・骨・臓器が描かれたイラスト

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
野菜の味に関する活動では、子どもたちが「野菜の味」そのものに強い興味を持っていたことから、さらに「身近な野菜」を意識できるよう、具体的な食感や調理による変化を引き出す問いかけを心がけました。 自分の予想を友達に共有しやすい環境を整え、子どもたちが挙手をして自発的に自分の意見を伝えようとする一人ひとりの表現を丁寧に認めていきました。 体の探究の導入では、鏡を見ながら自分の身体に触れる実践を多く交えることで、目に見えない体内への興味を促しました。 子どもたちから次々と溢れ出る疑問に対して、保育者がその場で正解を教えて終わらせるのではなく、子どもたち自身が図鑑やイラストを使って「自ら調べてみる時間」をしっかりと確保しました。また、保育室に看護師がいた環境を活かし、消化にかかる時間などをその場で専門職に直接聞いてみる関わりを行いました。	【子どもの姿・声】 ・野菜の話し合いでは、「人参は生は固くて苦いけど、温めると甘くなるから好き」「玉ねぎとゴーヤは苦手」など、これまでの実体験に基づいたリアルな食感や好き嫌いを友達に生き生きと共有していました。 ・友達の発表を真剣に聞きながら、「あ～確かに」「一緒!」と深く共感したり、新しい視点に気づいて声をあげたりする姿が見られました。鏡を見ながら「口の中には口内炎あるよ」「体の中で一番動いている部分は脳みそじゃない?」「息もしてるよ」と、自分の身体を熱心に観察していました。 ・消化の絵本を聞く場面では、「食べ物胃袋に入るんだって」「うんちって残りカスなんだ」と、身体の仕組みに思い思いの感想を呟いていました。また、図鑑やイラストにある漢字の部分にも興味を示し、保育者に読み方や詳しい役割を熱心に尋ねる姿がありました。 【保育者との関わり】 子どものつぶやきや疑問を大切に受け止め、一人ひとりの発見をホワイトボード等を書き留める工夫を模索しました。給食中にも「今食べたものはどこの臓器にあるかな?」と問いかけるなど、活動の時間だけでなく生活のあらゆる場面で探究が地続きになるような関わりを意識しました。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・身近な野菜を自分自身の経験と関連付けて考えさせることで、子どもたちの記憶力や、感じたことを言葉にする表現力が豊かに育まれていることを実感しました。 ・友達と互いに情報を共有し、それぞれの記憶や発見を言葉で表現し合うプロセスを通じて、コミュニケーション能力や協調性も同時に育まれていました。 また、野菜への親しみが増したことで、日々の給食への意欲が高まるという嬉しい変化も見られました。 ・鏡で口の中を見たり、呼吸時の胸の膨らみを確かめたりするなど、実践や実験を多く交えたアプローチが、子どもたちの身体への興味を引き出す上で非常に有効であると分かりました。 ・子どもたちから溢れる疑問や知的好奇心は非常に高いため、その瞬間のつぶやきを逃さずホワイトボード等にメモして残し、次の調べる活動へ確実に繋げていく工夫が大切であると気づかされました。	・「身近な野菜」という日常に直結したテーマであったため、子どもたちにとっても非常に親しみやすく、主体的に生き生きと活動できている様子がとても良かったです。 普段の食育活動(調理や水やりなど)の枠にとどまらず、このように「なぜ?」「どうして?」と科学的にアプローチする探究活動を行うことは、子どもたちの食べる行為そのものへの関心を劇的に深めるため、今後も継続して取り入れていきたい素晴らしい試みです。 野菜を単なる食材として見るだけでなく、私たちの「心と体を健康にする大切な自然の恵み」として捉え、旬の味を五感で楽しむ心を育てていきましょう。 日常生活の中で意識しづらい「目には見えない臓器や体内の仕組み」について、子どもたちの興味(なぜ野菜を食べるのか)に合わせて絶妙なタイミングで活動に組み込めており、テーマから内容まで子ども一人ひとりの発達に合わせた非常に質の高い活動になっています。食べることは自分自身を大切にする基本であり、体への感謝の気持ちを持つことで、日々の食事がより豊かで素晴らしい時間になっていくと感じています。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 めろん 組	10 月 10 日 (金)	

● 実施計画

活動テーマ		
アート ～色のふしぎ～ ①色について知ろう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
7, 8月の水遊び中に色水をペットボトルに入れて遊んだり、涼しくなったら公園で色鬼をして遊んでいる。10月から個人用の絵の具を使い始めた事で、色や色の混ざり方に興味持ち、自分で実験してみようとする姿が多く見られるようになっている。		
		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
前日 10:00～	・公園で色鬼をする。 ・自然物や固定遊具などの色に触れながら、ゲームを楽しむ。	【環境設定】 - 子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 - 正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。 - 正解へと誘導しないよう留意する。 【準備物】 - 食べる事に関する絵本 - 画用紙 - ホワイトボード - ホワイトボードマーカー - クレヨン - 暖色、寒色、中間色が書かれた用紙 【事前準備】 - 色鬼をする。 - 水についての絵本を設置。 - 画用紙をはがきサイズに切り、色見本カードを作成。
10:30～10:35	・好きな色を聞く。	
	・どんな色があるか聞く。	
10:35～10:45	・暖色、寒色、中間色について説明する。	
	・暖色、寒色、中間色の用紙を配布し、①暖かい色②寒い色を聞いてみる。	
10:45～11:15	・画用紙をクレヨンで配布し、〇〇色を使わずに〇〇色を作る実験をする。 ①紫を使わずに紫を作る。 ②2色使ってオレンジを作る。 ③2色使って水色を作る。 ④2色使って黄緑を作る。 ⑤3色使って茶色を作る。 ⑥何色使えば黒はできる？ ⑦白を使わずに白はできる？ ・実験を重ねていく中で、こすると色が変化することに気づき、友だちに共有する。	
11:15～11:25	・自分の画用紙で混ぜたクレヨンを、指でこすってみる。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・友だちの意見に耳を傾けたり、自分の意見を挙手をして伝えたりしようとする。 ・自分の知っている知識や気づき、発見を友だちに教えようとする。 ・2, 3色を混ぜると何色に変化するかについて興味を持ち、探求心を持つ。	【子どもの姿・声】 ・「茶色を作るには何色が必要か」などの問いに対して、答えを知っている子はすぐ答えを大きな声でみんなに伝えようとする。探求心がある子はいろんな色を使って何度も繰り返しやってみようとする。すぐ答えを知ろうと知っている子に聞いたりする。などさまざまな姿が見られた。 【保育者との関わり】 ・答えを知っている子が、答えを言ってしまっていたため、探求心がある子が、調べる前に答えを知ってしまい、言い合いになることがあったため、大きな声で言うのではなく、すぐに教えてほしい子は知っている子にこっそり聞きにいくよう促し、自分で調べたい子への配慮を行った。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・子どものつばやきを拾ってあげたいが、拾いきれない事が多くあったため、ホワイトボード等にその時の疑問をメモしておくことができると良かった。 ・鏡で口の中や目を見ることや呼吸する時の胸のふくらみ方など、実践を多く交えたことで体について興味湧いている様子が見られていた。 ・看護師が保育室にいたため、消化にかかる時間などを聞いてみるなどすることができた。	・目には見えない臓器などについては意識しないと活動に組み込めないためとても良い活動になったと思う。 ・子どもたちが興味関心をもって取り組んでいる姿が見られ、テーマから内容まで子どもたちに合わせた活動になっていると感じた。」

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 めろん 組	11 月 12 日 (水)	

● 実施計画

活動テーマ		
アート ～ふしぎな絵～ ①なんの絵に見える？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
【錯覚絵】と聞いてもピンと来ていない様子だったが、【トリックアート】と聞くと「見たことある！」「トリックアート館行った」と興味を持っている様子が見られていた。		
		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
9:30～9:35	・錯覚絵やトリックアートがどのようなものか伝えるなど導入を行う。	【環境設定】 - 子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 - 正解を求めるのではなく、パッと見たときの気づきを共有できるようにする。 - 正解へと誘導しないよう留意する。 【準備物】 - 活動使用教材 【事前準備】 - 活動使用教材を印刷する。 - 絵画の図鑑設置。
9:35～10:00	錯覚絵の観察をする(1) ①牛とペンギン ②鳥とタコ ③動物の隠れる木 ④永遠階段 ⑤高台に人の顔	
10:00～10:15	錯覚絵の観察をする(2) ①角度を変えて(象) ②角度を変えて(犬)	
10:15～10:20	錯覚絵についてまとめをする。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・トリックアートに興味を持ち、見た事のあるトリックアートを友だちに共有する姿が見られる。 ・いろいろな角度から錯覚絵を観察しようと、体を動かしながら観察する。	【子どもの姿・声】 ・「こっちから見ると見える！」「なんかこの絵変！」など絵に対する気づきや発見を友だちや保育者に共有する。 【保育者との関わり】 ・正解を聞き出そうとする姿もあったが、そうならないよう「何に見えた？」「確かに、そう見えるかも」など肯定するような声掛けをする。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・角度を変えて絵を見たり、動物探しなどの錯覚絵が人気だった。 ・終始興味を持っていたが、難しい絵が続くと飽きてしまう。	トリックアートに興味をもったんですね。自分で感じたことを友だちに共有する姿が見られたのは嬉しいです。 わくわく探求活動の中で自分の思いや自分の意見を発表する機会は小学校へ行ってもとても役に立つと思います。これも、多く経験することが大切かと思います。 子どもが自ら気づけるように角度を変えてみたり何に見えた？などの言葉がけの配慮もできていますね。 子どもの意見を尊重しながら進めていきましょう。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 めろん 組	12 月 3 日 (水)	

● 実施計画

活動テーマ		
アート ～この絵どんな絵？～ ①好きな絵を見つけてみよう！		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
絵画の図鑑や代表的な絵画の資料を見ながら、気になる絵を探していった。 作者名や絵の題名を知っている子が多くいた。		
		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	【環境設定】 ・ 子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・ 正解を求めるのではなく、パッと見たときの気づきを共有できるようにする。 ・ 正解へと誘導しないよう留意する。 【準備物】 ・ 活動使用教材 ・ ホワイトボード 【事前準備】 ・ 活動使用教材を印刷する。 ・ 絵画の図鑑設置。
9:45～9:50	・前回の振り返りをする。	
9:50～10:10	①好きな絵を1つ選ぶ。	
10:10～10:30	②好きな絵の気になった部分を発表する。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・資料を保育者が読み、その後自由に絵の観察を行う。知っている画家や絵が多かったようで、友だち同士で情報共有する姿が多く見られた。 ・色の使い方や描かれている内容から、その絵が伝えたいことを読み取ろうとする。 ・描かれているものや人物に興味を持つ。	【子どもの姿・声】 ・「ゲルニカ。。。なんか怖い」「ひまわりは全部の花の形が違う！」など感じ取ったことや気づきを友だちに共有するなど、意見交換をしていた。 【保育者との関わり】 ・資料の文章をより噛み砕いて伝え、使われている色や内容に興味を持てるような説明を心掛けた。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・絵画の図鑑をじっくり眺める姿があり、絵画への興味を持っている様子が見られ、日々の製作で実施できそうなことは取り入れていきたい。 ・絵に付属する文を自分で読みたそうにする子が多かったため、平仮名の文やルビがあれば自分で学びを深めていけるように思う。	子どもたちが絵をよく観察し、感じたことや気づきを友だちと共有する姿が見られ、主体的な鑑賞活動になっていたと感じます。保育者が内容を分かりやすく伝え、興味を引き出していた点も良かったです。 今後は、鑑賞で得た印象を製作活動につなげたり、ルビ付きの資料などを用いて、子どもが自ら学びを深められる環境づくりを意識していくと、さらに充実した活動になると思います。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 めろん 組	1 月 8 日 (木)	

● 実施計画

活動テーマ		
おかね ～おかねってなんだろう～ ①お金ってなあに？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
お正月休み中にもらったお年玉の金額を子どもたち同士で報告し合う姿や自由帳に描いたものに値段を設定する様子が見られている。		
		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
13:40～	①買い物をするときのことを思い浮かべながら、必要な物を考える。 ・買い物をする時に必要な物がなにか深く問いかける。 ②買い物にお金が必要な物を考える。 ・なぜお金を払うと物が買えるのかじっくり考えてみる。 ③物々交換を実際にやってみよう！ ・大きな人参をもらうには、何と交換すれば交換できるか、いろいろなパターンを考える。 ④車1台と食べ物を交換するとしたら何個何が必要かな？ ・車1台と交換してもいい食べ物の絵を実際に描いてみる。 ・車の絵と食べ物の絵を実際に交換してみる。 ・交換した時の気持ちや納得感を確認する。	【環境設定】 ・ 子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・ 正解を求めるのではなく、パッと見たときの気づきを共有できるようにする。 ・ 正解へと誘導しないよう留意する。 【準備物】 ・ おままごとの食べ物 ・ ホワイトボード 【事前準備】 ・ 物々交換しやすい物としにくい物を想定しておく。 ・

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・「買い物をする時に必要な物」について意見を聞くと「カゴ」や「スーパー」「欲しいもの」等の答えが上がっていた。お金についてはなかなか出てこなかったため、保育者から提案するとさまざまな支払い方を思い出していた。クレジットカードとpaypayのお金の流れに興味を持っていた為、仕組みについても触れ理解を深めた。 ・車1台と食べ物を交換する場面では、車の価値があまり分かっていなかったようで、リンゴ1個や豚肉と交換する事を良しとする子が多かったため、おままごとの人参を使用し、イメージが湧きやすいようにしたことで、物々交換の間隔を少し掴んだ様子が見られていた為、体験を通してイメージを広げていけるような内容へと繋げた。	【子どもの姿・声】 ・家や車などその物の価値を理解することは難しかったようだが、値段設定をした人参や大根を例に挙げると「大きい人参は1個は500円で、小さい人参は2個で200円なら300円足りないから大きい人参が良いと思う」など、理論的な意見が上がっていた。 【保育者との関わり】 ・車1台とりんご1個を物々交換した理由などを聞いていき、意見を丁寧に聞き取り、寄り添うようにした。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・値段設定をしたものとそうではないものによって物の価値の感覚が異なる様子に賢さと不思議さの両方を感じた。 ・物々交換をする際に人によって、物の価値が異なる事を感じられるような展開を作っていくことが難しかった。 ・物の値段を示した時に、お金というよりも数字に興味を持つ様子が多く見られていたため、翌週の活動では導入の仕方を工夫していきたい。	子どもたちの日常のつぶやきや疑問を丁寧に拾い上げ、深い学びへと繋げている素晴らしい実践記録ですね。 身近な「買い物」から、目に見えない電子マネー（PayPay等）の仕組みにまで興味が広がったのは、保育者が子どもの「なぜ？」に寄り添い、適切に提案したからこそだと思います。 お金や物の価値という抽象的な概念を、今後どのように遊びや体験（ごっこ遊び等）へ発展させていくのか、次なる展開をととても楽しみにしています。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 めろん 組	2月3日(火)～12日(木)	

● 実施計画

活動テーマ		
おかね ～おかねの使い方を考えよう～ ①お仕事をしてみよう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
1月の活動以降お金に触りたくてしょうがない様子の子どもたち。模擬硬貨を使った遊びを自由遊びで行うためには、どうしたらいいかいろいろな案を考えて保育者に提案する子もいた。		
		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
11:00～	①先月の内容を振り返る。	【環境設定】 ・ 子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・ 保育者が決めるのではなく、子どもたちが決めていくことができるようにする。 ・ お駄賃をもらうことに集中しすぎないように、普段の活動優先にする。 【準備物】 ・ ホワイトボード、マーカー ・ お駄賃をまとめる表 ・ 模擬硬貨 ・ おしごと内容をまとめる画用紙 【事前準備】 ・ お駄賃をまとめる表作成する。 ・ おしごとを内容を記入する画用紙を切る。 ・ どんなおしごとができるか例をまとめておく。
11:10～	②おしごとの内容を考える。	
11:25～	③おしごと内容の対価を決める。	
11:35～	④1週間の中で手伝いを繰り返し、お駄賃を稼いでいく	
	・ もらったお駄賃をまとめる表を作成し、模擬硬貨を貼り付けていく。 ・ ゴミ5個拾った、静かにして怒られなかったよと保育者に報告し、お駄賃をもらう。 ・ 怒られるなどした際は、罰金がある。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・導入では、保護者は仕事をしてお金を稼いでいる事やお金がないとどうになってしまうのかを振り返る。5歳児が保育園でできるおしごとをみんなで考え、報酬金額も話し合いながら考えていく。 ・お駄賃をもらう嬉しさを感じながらも、怒られてしまった時や守れなかったときにどうになってしまうのか気にする様子が多く見られる。怒られたら罰金にしようみんなで決め、その罰金対象の内容も決める。	【子どもの姿・声】 ・「ゴミ拾い1回100円がいい」「先生にありがとうって言われたら200円」などいろいろなお仕事の内容が上がり、どの内容を採用していくのか、値段設定はどうするのか相談し合う。 ・怒られたときはどうなるか、お仕事をしなかったらどうなるかと疑問を持つ。怒られた時と普段の約束事を守れなかったときは罰金にすることを全体で話し合っで決めた。 【保育者との関わり】 ・お仕事をしなかったときの罰金は採用しないよう上手く誘導しながらも、子どもたち同士で話し合う姿を見守っていく。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・おしごと内容は自由に書くのではなく、みんなで話し合いながら決めたことで全員が納得できる仕事内容を定めることができた。 ・罰金制度を取り入れたいと言う声に少し驚いたが、子どもたちの意見を取り入れることにした。 ・お駄賃(模擬硬貨)を貼っていく表を作成し、壁に貼ったことでお駄賃の現状を把握しながらお手伝いをしようと頑張る姿が見られていた。	「ゴミ拾い」「ありがとうと言われたら」など、子どもたちなりに園の役に立ちたいという意欲が金額の提案によく表れています。何より素晴らしいのは、保育者が「お仕事をしなかったときの罰金は採用しない」よう、子どもの主体性を守るために上手く誘導した点です。これにより、労働が「罰を避けるための義務」ではなく、「意欲的に取り組む主体的な活動」としての本質を保つことができました。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 めろん 組	3 月 23 日 (月)	

● 実施計画

活動テーマ		
おかね ～おかねで何ができるかな?～ ④お金をわけあうって?		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
3月頭から看板やメニュー表、商品を準備していたことで、開店日を心待ちにしていた。		
		環境設定 ・ 準備物
	内容	
10:00～	①配置設定、看板貼り出し 保育室に机を3つ配置、並びやすくするために線を引く。3月②、③回目のわくわくで作ってきた看板等を机にはり、商品を並べる。	【環境設定】 ・ 3, 4歳児が並びやすいよう、机の配置やラインを引くなど工夫する。 ・ メニュー表や商品の裏にメニュー名を書いておくなど、当日困らないようにしておく。
10:10～	②発声練習(お店ならではの挨拶ややりとり練習) いらっしやいませ→何にしますか?→コイン〇枚です。→ありがとうございました。の流れ挨拶をグループ毎に練習する。	【準備物】 ・ コイン ・ 看板、メニュー表 ・ 商品 ・ 養生テープ ・ カゴ ・ 財布(3,4歳児に事前に作っておいてもらう)
10:30～	③3,4歳児にお買い物に来てもらい、お店屋さんごっこをする。 5歳児が店員、コインを持った3,4歳児がお客さんとなり、お買い物ごっこを行う。	【事前準備】 ・ 3,4歳児と日程を調整する。 ・ コインが10枚入るお財布を各クラスで作っておいてもらう。

● 実施報告

1
枚

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・環境設定を行ってから、看板やメニュー表の掲示、並ぶライン引きを行うなど、設営を行う。 ・環境設定を行ってから、お店屋さんごとに2人店員役、1人お客さん役になって、お客さんごっこの言葉や流れの練習を行う。全員がお客さん役を体験できるようにする。 ・3,4歳児にお客さん役として来てもらい、お店屋さんごっこを行う。お金と物を交換する面白さを体験していた。	【子どもの姿・声】 ・「いらっしゃいませ！」「何にしますか？」「コイン〇枚です」などお店屋さんになりきっていた。 ・何をかうか悩んでいる子に「これはどうですか」「これは〇〇です」と教えてあげる様子も見られた。 【保育者との関わり】 ・練習前に保育者が一連のやりとりの見本をみせ、真似しながら進めらてるようにする。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・お店屋さんごっこの看板やメニュー表は用意したが、エプロンなどはなかったため、カラーポリなどを使って製作しても良かった。 ・レストランのように注文してから準備するようなお店が1つは合っても良かった。	看板の掲示だけでなく、お客さんが困らないように「並ぶライン引き」まで自分たちで行う設営の姿に、年長児としての高い空間認識と責任感を感じます。また、事前に全員が店員・お客さんの双方の役割をシミュレーションしたことで、本番は自信を持って3・4歳児を優しく迎え入れることができたのでしょう。異年齢の子どもたちにとっても、「お金と物を交換する面白さ」を身をもって体験できる素晴らしい社会体験の場となりましたね。